



学校だより

10月号

令和4年9月30日

温かい言葉、温かい聞き方

校長 青木 和裕

朝晩の涼しさ、真っ赤に咲く彼岸花。秋本番を感じさせます。三連休のたびに日本列島を台風が縦断し、各地に大雨を降らせました。被害にあわれた方々に、心よりお見舞い申し上げます。

「温かい言葉・あいさつがいきかう、温かい学校・学年・学級をつくっていきます。」前期学校説明会で、そのようにお話しさせていただきました。温かい言葉がいきかううえで大切なのは、「温かい聞き方」です。この夏、たまたまですが、教職員は同じ演習を3回体験しました。1回目は、本校特別支援教育コーディネーター、松下・奥野教諭による、「特別支援教育研修」。2・3回目は、横浜市教育委員会の先生を講師にお招きしての「特別活動研修」、「瀬谷区国語教育研究会講演会」。

2人組になって、聞き手と話し手を分担します。話し手は、話題（趣味や好きな食べ物など）について2分間話し続けます。そのとき、聞き手は次のような態度をとります。背もたれに寄りかかり、腕組みをする。一切話さない。うなずかない。相づちを打たない。終わった後、役割を交替してもう一度行います。次に、同じ話題について、今度は聞き手は次のような態度をとります。相手の顔を見て、身を乗り出すように聞く。うなずきや相づちを必ず入れる。柔らかく豊かな表情で聞く。このように、聞き手が積極的に傾聴する態度をとると、よく話を聞いてもらえてうれしい、このまま話を続けていいんだ、という安心感や自己肯定感が芽生えます。一人ひとりを大切にする「特別支援教育」、学級・学校づくりの基盤となる「特別活動」、あらゆる知的活動の基盤となる国語力を育てる「国語科教育」。それぞれ目的が違う三つの研修において、凶らずも同じ演習を体験させていただきました。教師が学んだ、体感した、この「温かい聞き方」を、子どもが実践して、体感する。今、各学級では、友達の話をも温かく受け止める、聞き方名人が増えてきています。



小学校最大の行事である運動会まで、残すところあと一週間となりました。平日は、雨にたたられる日が少なく、順調に各学年ともに練習を進めています。自分のめあてに向かって意欲的に取り組む姿、友達と力を合わせて取り組む姿に、温かい眼差しと拍手をいただけたら幸いです。ご家庭でのお子様の健康観察、体調管理を、引き続きよろしく願いいたします。